

第57回 日本母親大会 in 広島 7月30日全体会に参加して

湯浅誠氏 記念講演会「貧困をなくし人間らしく生きられる社会に」

なるほど、なかなか頭の良い人だ。事前にどんな団体でどんな参加者なのかは一定分かってはいるのだと思うが、会場でやり取りをしながら参加者の状況を確認しながら話を進める。ホームレスの人が病気になっても救急車は病院に運べない。受け入れる病院がないからだ。そういう人を応援する活動をしていた。などの掴みで湯浅氏をそれほど知らない人にもわかる自己紹介をして行く。

貧困をなくし人間らしく生きられる社会を作るためには、個々の人が自分たちに必要だと思うものを要求し、なければ作らなくてはならない。求めることと作ることはセットだと言う。必要だと感じない側の人たちにも声をかけて求めていくことが、それも人間らしく生きることなんだろうと思ってしまうのは頭だけで考えてしまい、その切実な必要性を感じていない側の人間だからなのだろうか。

結婚の状況は20、30年前の参加者の多くの「お母さん」とは条件が違う。30才で結婚できていない人が3割もいてそれは普通だ、と話は進む。なぜ結婚できないか。収入の少なさによる経済条件の問題だと分析するが、どうやって解決できるのかの道筋はない。若い人の死亡原因の一位は自殺で（若い人だけではなく私の様な50代の男性もなんだが）交通事故死が5000人くらいに減っている中で年間3万人が自殺することが13年間続いている。日本はそれをもう余り驚かなくなっているという異常な社会だと続く。

次には、就職活動は就活、結婚活動は婚活、生活は生活をするために活動をしななければいけない世の中だ。ぼーとしてたら生きていけませんよ。と落とし所はきついブラックユーモアの様な話になる。

少子高齢化が続き2050年の高齢化社会では15歳から64歳までの全員で1対1で高齢者を支えることになる。その人たちの半分は女性である。だから女性がちゃんと活躍できる社会にしていかなければならない訳だ。女性の社会参加をしているか否かが民主的な社会かどうかの指標だと思う。

「ホームレス支援の湯浅氏」の提案や呼び掛けがあると思っていたが、集まった人への、少なくとも就労支援での「命を産み育てる女性たち」への提案は、年齢の差、障害を持った人や男女の別、色んな趣味などなど多様な人たちがそれぞれの持っていることを活かせる、それぞれの人が生きていく意味を持つ社会にしていくことで幸せにしていくことができますよという柔らかいメッセージだったと思う。では、私は何をするのか、生活をするためには今や活動をしななければならないというアイロニーは、それをブチ壊す事が必要なのか、それは甘んじて現実として受け止めるのかが不明だ。今が幸せであるとは思えないが、東北地震での津波での被害を見れば、そんな事を今いえる状況ではないということなのか。津波で起きている生活苦や福島原発に関わる話題・提案はなかったことは疑問。

劇

ヒロシマ被爆者とチェルノブイリ、ビキニ、そしてフクシマの被爆者の構成劇はきちんと練習がされておりリアルで演じられたいたと思います。フクシマ被爆者役の女の子の声が可愛かった。

クミコ「I NORI」

みやぎ生協での取り組みや岩手にボランティア支援活動をした時に、被災地で彼女のコンサートの準備をしていることは聞いており、直前にNHK TVでもそうした番組を見ていたのだけど、生の彼女のミニコンサートを聞いて、ラッキーでした。震災支援活動への思いも聞け、今のクミコさんの立ち位置も聞いて何より歌声はパワーがあり良かったです。

運営その他

参加者が多く、8500人の参加者はすごいな、と思いました。全体会の運営も盛りだくさんの内容をスケジュール通りに進めるためにステージ上の進め方の工夫もありだらしない進行で、メリハリがありスムーズな進行も良かったです。日程の都合で分科会に参加できなかったのが残念でした。広島県での開催ということから岡山県からの参加者も多く、会場では見知った方も多く見かけ良かったです。また、物産展も楽しめました。当日のデモ（パレード）も先立っての沿道には日本共産党の議員が道案内を兼ねて宣伝もしており、広島らしい運営だったと感じました。